

－ここがポイント－ 似た草の見分けかた (2)

原図 桑原義晴

全国農村教育協会 廣田伸七

「植調」第41巻4号(通巻460号)平成19年7月発行で－ここがポイント－似た草の見分けかたと題して「タデ科植物」21種を掲載したところ好評をいただいた。今回はその(2)として水田雑草22種を対象としてその見分けかたを掲載した。

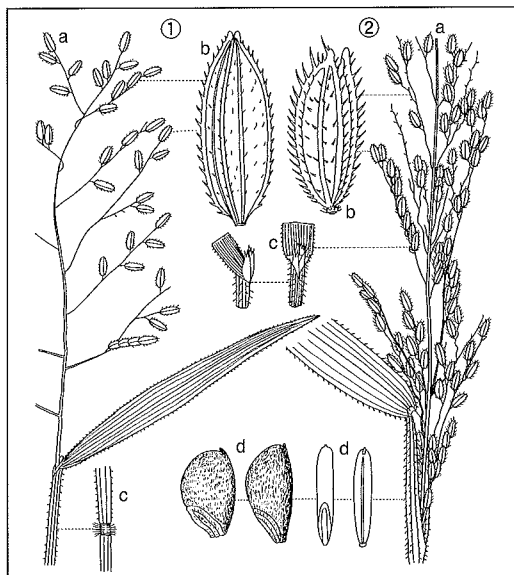
雑草には一見して同じように見えるものが数多くある。例えばカワヂシャとエゾノカワヂシャは外形がほとんど同じで、これを見分けられる人はかなりの専門家である。また、アゼトウガラシとスズメノトウガラシ、サウトウガラシ、この3種はほとんど同じような形でこれも難しい仲間である。この仲間はゴマノハグサ科のアゼトウガラシ属(*Lindernia*)で、アゼナ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、スズメノトウガラシ、ウリクサなどがあるが、水田で多いのは

アゼナ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、スズメノトウガラシでウリクサは畑地の雑草である。アゼナ、アメリカアゼナは葉が楕円形～卵状長楕円形で葉の幅が広いのに対し、アゼトウガラシとスズメノトウガラシは葉が披針形～倒披針形で細長いので簡単に区別がつく。サウトウガラシはゴマノハグサ科のサウトウガラシ属(*Deinostema*)であるが水田に発生が多い。アゼトウガラシ、スズメノトウガラシ、サウトウガラシは非常に似ているので区別は容易ではないが、葉や果実の特長を理解すると簡単に区別できる。こうした類似雑草を全体の印象は口絵のカラー写真で(1～4頁参照)、各々の特長は図と解説で理解していただきたいと試みたのが本稿である。雑草調査にいささかでもお役に立てば本望である。

●サヤヌカグサ・多年生とエゾノサヤヌカグサ・多年生(イネ科)●

(Leersia sayanuka Ohwi)

(Leersia oryzoides Sw.)



▲①サヤヌカグサ ②エゾノサヤヌカグサ
a. 花序 b. 小穂 c. 葉鞘と葉舌及び節 d. 果実(穎果)

どちらも水田付近の排水溝や湿地に群生し、畦畔などから水田に侵入して水田の雑草となる。見分けるポイントはエゾノサヤヌカグサはサヤヌカグサに比べて小穂の縁と両面の剛毛が長くて明瞭である。

－見分け方－

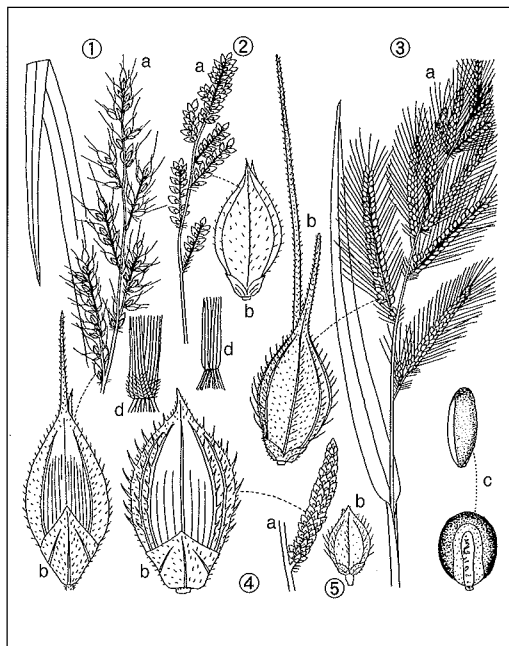
草種 部位	サ ヤ ヌ カ グ サ
葉	黄緑色、葉の縁に剛毛がありざらつくが毛は短い。葉舌は長さ4mm。葉鞘に下向きの短刺がある。
茎	下部は倒伏し節々から枝を出し斜上または直立。節に下向きの白い細毛がある。
小穂	線状長楕円形、長さ5.5～6.5mmで面はほぼ緑色。縁と側面に剛毛があるが短くてややまばら。

草種 部位	エ ゾ ノ サ ヤ ヌ カ グ サ
葉	葉の緑色はサヤヌカグサ程鮮明ではない。葉の縁の剛毛は長くざらつく。葉舌は長さ2mm、葉鞘に下向きの刺があり、サヤヌカグサより多く長い。
茎	基部は長くほふくし、節々から新しいほふく根茎を伸ばし節々から枝を出す。節に下向きの毛がある。
小穂	長楕円形、長さ5～6mm。縁と側面にサヤヌカグサより長い剛毛が多くあり、特に縁の剛毛は長くて明瞭である。

ヒエ属の比較 (イネ科)

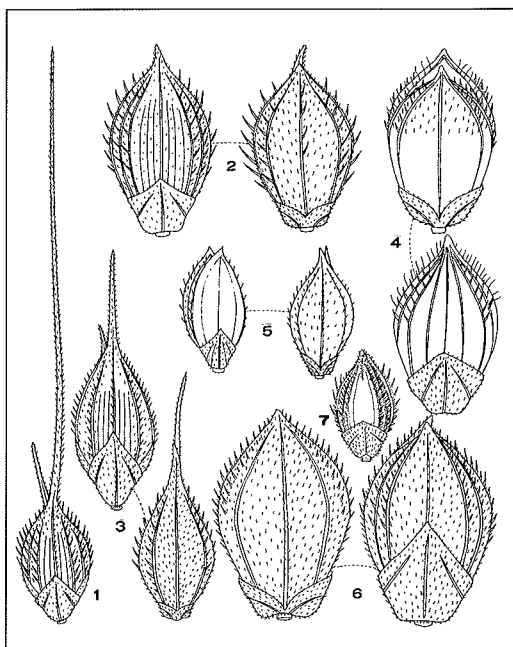
耕地に生育する1年草。葉舌は発達しない。小穂は2小花からなり、第1小花は不完全。

1. タイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *oryzicola* Ohwi 小穂は狭卵形、淡緑色、長さ4～5.5 mm、芒は3～10 mm。
2. ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *formosensis* Ohwi 小穂は卵形、濃緑色、長さ3 mm、芒は0.5～1 mm。
3. ケイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *echinata* Kitagawa 小穂は卵形、赤紫色、長さ3 mm、芒は10～35 mm。
4. イヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. 小穂は卵形、紫かつ色、長さ3～4 mm、芒は1～5 mm。
5. ヒメイヌビエ *Echinochloa crus-galli* Beauv. var. *praticola* Ohwi 小穂は卵形、緑色～淡紫かつ色、長さ2.5～3 mm、芒はない。



▲図の数字は本文の数字を示す
a. 花序 b. 小穂 c. 果実(穎果) d. 株元

ヒエ属 小穂の比較 (イネ科)



▲図の数字は本文の数字を示す

耕地や荒地、路傍に生育する1年草。1小穂2小花で、第1小花は不完全。葉舌はまったく発達しない。

1. ケイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *echinata* Kitagawa 葉の幅10～15 mm。小穂は卵形3 mm、赤紫色。芒10～35 mm。
2. イヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. 葉の幅10～18 mm。小穂は卵形3～4 mm、紫かつ色。芒1～5 mm。
3. タイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *oryzicola* Ohwi 葉の幅8～12 mm。小穂は狭卵形4～5.5 mm、芒3～10 mm。
4. ヒエ *Echinochloa crus-galli* var. *frumentacea* Trin 葉の幅10～15 mm。小穂は広倒卵形3～3.2 mm、紫かつ色。芒は退化。
5. ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *formosensis* Ohwi 葉の幅3～6 mm。小穂は卵形3 mm、濃緑色。芒0.5～1 mm。
6. ワセビエ *Echinochloa colonum* Link 葉の幅6～10 mm。小穂は倒卵形2.5～3 mm、緑色。芒は退化。
7. ヒメイヌビエ *Echinochloa crus-galli* Beauv. var. *praticola* Ohwi 葉の幅6～10 mm。小穂は卵形2.5～3 mm、緑色～淡紫かつ色、芒は退化。

●ミゾハコベ(ミゾハコベ科)・1年生とミズハコベ(アワゴケ科)・1年生●

(Elatine triandra Schk.)

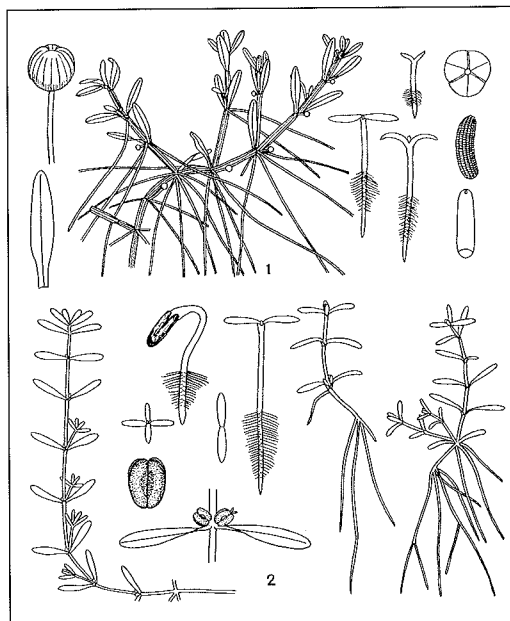
(Callitriche palustris L.)

ミゾハコベ、ミズハコベはゾとズの違いだけだが似た名前でよく間違われる。どちらも小形の雑草で水田によく発生する。ミゾハコベは水田の泥に張りついたように生育し、ミズハコベは細い茎を伸ばして先の方に葉が集まってつき、葉を水面上に浮かべて生育する。最近はこのミズハコベに似たイケノミズハコベという帰化植物が現われている。(カラー頁参照)

一見分け方

草種	ミゾハコベ
部位	
葉	葉は対生。長楕円状披針形でやや厚みがあり、短い葉柄と托葉がある。茎・葉ともに泥に張りついたように生育し、水中にある。
茎	円柱状で泥の上を横にはい分枝し節々から根を出す。
花	淡紅色。がく片、花弁、雄しべ各3個つく。
果実	果実は球形。種子は細い楕円形。
他	

草種	ミズハコベ
部位	
葉	葉は対生。水中葉は線形。水上葉はへら状長楕円形でどちらも柄はない。水上葉は茎の上部に集まってつき水面に浮かぶ。
茎	円柱状で細く、多くに分枝して長く伸び長さ10~30cm。茎の下部は水中にあり、上部は水面に浮かぶ。
花	白色。がく片、花弁はない。雄しべは1個で2個の包がある。
果実	果実は楕円形で狭い翼がある。
他	



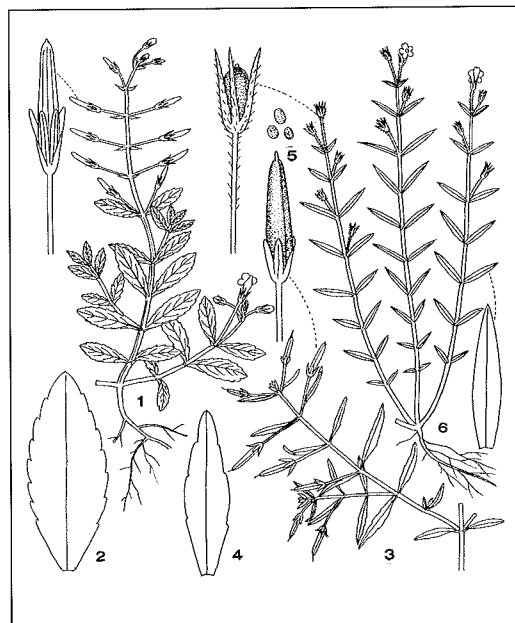
▲ 1. 上段 ミゾハコベ 2. 下段 ミズハコベ

●スズメノトウガラシ・1年生とアゼトウガラシ・1年生とサウトウガラシ・1年生(ゴマノハグサ科)●

(Lindernia antipoda Alston) (Lindernia angustifolia Wettst.) (Deinostema violacea Yamazaki)

3者いずれもトウガラシと名がついているが、これは果実の形がトウガラシに似ているのでこの名がついている。いずれも水田に発生し、葉の形、果実の形が似ていて見分けが難しいが、葉の鋸歯と果実に見分けるポイントがある。

一見分け方



▲ 1~2 スズメノトウガラシ 3~5 アゼトウガラシ 6 サウトウガラシ

草種	スズメノトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は四角柱状、根元で分枝し四方に広がる。長さ10~20cm。葉は対生・倒披針形、長さ2~4cm。3種のうち葉が一番大きく幅も広い。縁は鈍鋸歯。
花・果実	花は淡紅紫色。雄しべ2本。さく果は線形で長さはがくの2~2.5倍。(アゼトウガラシは3~4倍ある)

草種	アゼトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は四角柱状、根元で分枝してくさむら状に直立。長さ10~25cm。葉は対生・披針形でスズメノトウガラシより幅が狭く、長さ1~3cm。縁は低鋸歯。
花・果実	花は淡黄白色~淡紅紫色。雄しべ4本。さく果は線形で細長く、がくの3~4倍。(スズメノトウガラシは2~2.5倍と短いのでこれで区別できる)

草種	サウトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は軟弱。根元で分枝し高さ12~24cm。葉は対生、線形で幅が狭く長さ7~10mm。縁は全縁。
花・果実	花は紫色。雄しべ4本で2本は仮雄しべ。さく果は長楕円形でがくよりも短く、がくの表面や果柄に腺毛がまばらにある。(果実よりがくが長いのが特長)

●カワヂシャ・1～越年生とエゾノカワヂシャ・多年生●

(*Veronica undulata* Wall.)

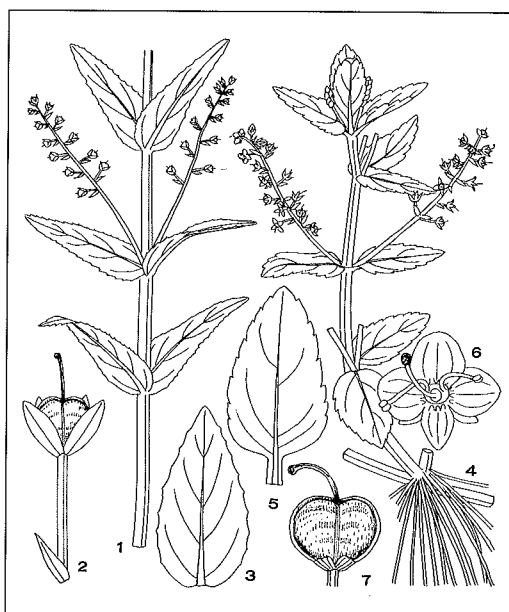
(*Veronica americana* Schw.)

カワヂシャ、エゾノカワヂシャはともに水田や畦、川岸、溝などに生育する。全体の形がよく似ているので判別が難しいが、見分けるポイントは葉にある。また最近では帰化植物のオオカワヂシャが暖地では多くなっている。(カラー頁参照)

－見分け方－

草種	カワヂシャ
部位	
葉	葉は対生、長楕円状披針形、先はとがり基部は円～微心形、縁に細かい鋸歯がある。長さ2.5～7cm、幅0.5～2.5cm。葉柄はなく基部がふくらんで茎を抱く。質は軟らかい。
茎	茎は円柱形で軟らかく、高さ20～50cm。
花	茎上部の葉腋に総状花序をだし、花冠は白色で淡紅紫色の糸がある花をつける。径4mm。
果実 他	さく果は球形、長さ3mm。

草種	エゾノカワヂシャ
部位	
葉	葉は対生、狭卵形、基部は円形で葉柄がある。長さ3～7cm、幅0.8～2.5cm。縁の鋸歯はカワヂシャよりもやや深い。この点と葉柄があることが判別のポイントである。
茎	茎の下部はほふくして節から根をだす。円柱形で軟らかく、高さ10～35cm。
花	茎上部の葉腋から総状花序をだし、花冠が青紫色の花をつける。径6mm。
果実 他	さく果は球形で先がやや凹む。長さ2～3mm、幅3～3.5mm。



▲1～3 カワヂシャ 4～7 エゾノカワヂシャ

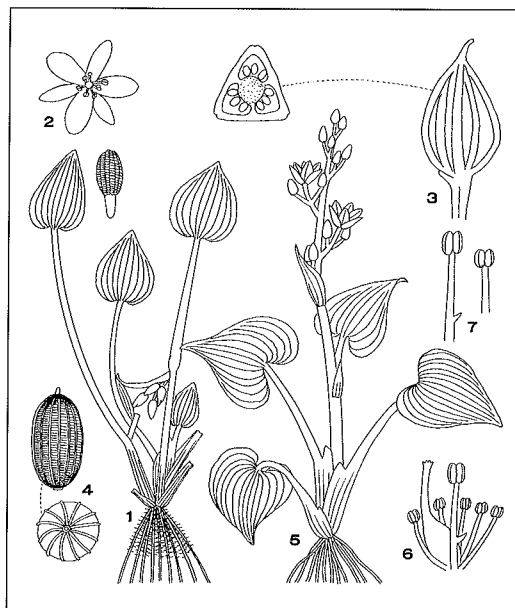
●コナギ・1年生とミズアオイ1年生 (ミズアオイ科) ●

(*Monochoria vaginalis* Presl)
var. *plantaginea* Solms-Laud.)

(*Monochoria korsakowii* Regel et Maack)

コナギ、ミズアオイは水田や溝などに生育し、特にコナギは発生量が多く水田の害草である。ミズアオイは地域によって発生量が多い場所もあるが、一方地域によっては希少植物に指定されている所もある。両者は葉の形が似ていて見分けに迷う種類である。

－見分け方－



▲図1～4コナギ 5～7ミズアオイ

草種	コナギ
部位	
葉	広披針形、卵形、心臓形など変化が多い。幅は1.5～4cm。葉は総て根生し、葉鞘は長さ5～10cmで先に1個の葉をつける。
茎	茎は短い
花	花は青紫色で径1.5～2cm。葉柄の基部に数個の花が集まって短いふさ状の花穂をつけるが、この花穂は葉よりも高くない。これがミズアオイとの一つの区別点である。
果実 他	さく果は卵状長楕円形。

草種	ミズアオイ
部位	
葉	心臓形で幅4～15cmとコナギより大きい。葉は根生するものは葉柄が20cm内外と長い。茎につく葉の柄は短い。葉柄の基部はさや状になって茎をとり巻く。
茎	茎は直立し、高さ20～40cm。
花	花は青紫色で径2.5～3cm。茎の上部に葉よりも高く花柄を出して花を総状につける。これがコナギとは大きな違いである。
果実 他	さく果は球状～楕円形。

●オモダカ・多年生とアギナシ・多年生（オモダカ科）●

(*Sagittaria trifolia* L.)

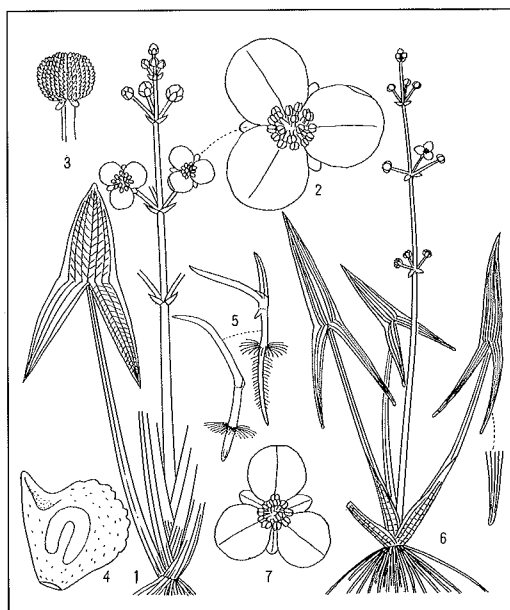
(*Sagittaria aginashi* Makino)

オモダカ、アギナシともに水田や溝などに生育し、水田での発生も多い。葉や茎、花などが非常によく似ていて地上部での判断は難しい。見分け方のポイントはオモダカは地下茎をだして先端に塊茎をつけるが、アギナシは地下茎をださずに株元に塊茎をつけるのでこれで区別できる。

－見分け方－

草種	オモダカ
部位	
葉	葉は長い葉柄があり、細長い矢じり形で3片になる。左右の下片は頂裂片より長く、先は細く鋭くとがる。(アギナシの下片の先は鈍くとがる)。頂裂片の先は鈍くとがる(アギナシは鋭くとがる)。
茎	茎は高さ20～80cm。上部の節毎に3個ずつ花をつける。
花	白色。がく片、花弁ともに3枚。
塊茎	秋に地下茎をだして、その先端に塊茎をつける。1株で50～150個の塊茎ができる。

草種	アギナシ
部位	
葉	葉は長い葉柄があり、細長い矢じり形で3片になる。裂片はオモダカよりやや幅が狭い。左右の下片は頂裂片より短い(オモダカは長い)。先は鈍くとがりやや丸い。頂裂片の先は鋭くとがる。
茎	茎は高さ30～80cm。上部の節毎に3個ずつ花をつける。
花	白色。がく片、花弁ともに3枚。
塊茎	秋に地下茎をださなくて、株もとに球状の塊茎を多数つける。これがオモダカとの大きな区別点である。(カラー頁参照)



▲1～5 オモダカ 6～7 アギナシ

●ヘラオモダカ・多年生とサジオモダカ・多年生（オモダカ科）●

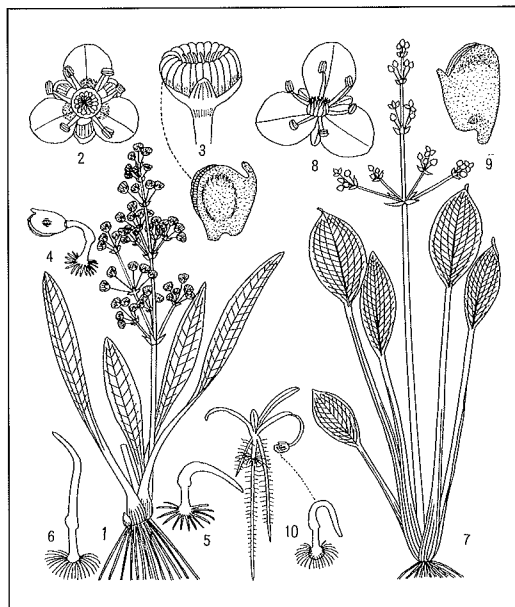
(*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche') (*Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Samuels.)

ヘラオモダカ、サジオモダカともに水田や溝などに生育し、水田での発生も多い。どちらも葉柄の先に葉身をつけるが、名前のとおりヘラオモダカはヘラ状の葉身、サジオモダカはサジ状の葉身をつけるのでなれと容易に見分けられる。

－見分け方－

草種	ヘラオモダカ
部位	
葉	葉は根生し、披針形～広披針形(へら状)で幅1～3cm、先はとがる。葉身基部は次第に狭くなり葉柄に流れて葉柄となる。葉柄を含めた長さ20～40cm。
茎	茎は高さ30～100cm。上部に輪状に多くの枝をだし多数の花をつける。
花	花は白色。がく片、花弁ともに3枚。
果実	果実の背面に1本の溝が走る。(サジオモダカは2本)

草種	サジオモダカ
部位	
葉	葉は根生し、卵状楕円形(さじ状)で幅3～10cmとヘラオモダカより広い。葉身基部は横に切れた形かまたは心臓形で葉柄に流れないので葉身と葉柄がはっきりする。(ヘラオモダカは流れる)。葉柄は丸みをおびる。
茎	茎は高さ60～90cm。上部に輪状に多くの枝をだし多数の花をつける。
花	花は白色。がく片、花弁ともに3枚。
果実	果実の背面に2本の溝が走る。(ヘラオモダカは1本)



▲1～6 ヘラオモダカ 7～10 サジオモダカ

●似た草の見分けかた (2) の口絵 (本文23～27頁)



▲サヤヌカグサ



▲サヤヌカグサ



▲エソノサヤヌカグサ



▲タイヌビエ



▲ヒメタイヌビエ



▲ケイヌビエ



▲イヌビエ



▲ヒメイヌビエ



▲ヒエ



▲ミゾハコベ 茎は泥の上をはう



▲ミゾハコベ 葉は水面に浮かぶ



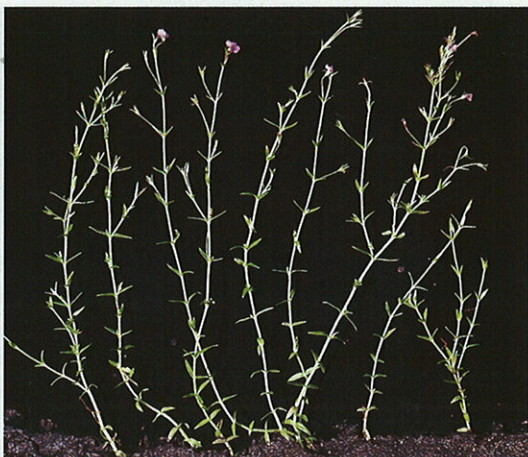
▲イケノミゾハコベ ミゾハコベより全体が大きい



▲スズメノウガラシ 葉の縁は鈍鋸歯



▲アゼトウガラシ 葉の縁は低鋸歯



▲サワトウガラシ 葉の縁は全縁



▲カワジシャ 葉柄がなく基部が茎を抱く



▲エゾノカワジシャ 葉柄がある



▲コナギ 葉は広披針形



▲ミズアオイ 葉は心臟形で大きい



▲コナギ 花は葉より低い



▲ミズアオイ 花は葉より高い



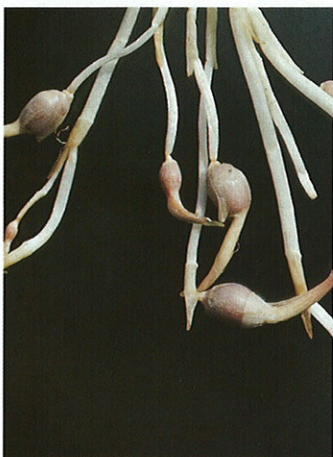
▲上・コナギ下・ミズアオイ



▲オモダカ 頂製片より下片が長い



▲アギナシ 頂製片は下片より長い



▲オモダカ塊茎 地下茎の先端に塊茎をつける



▲アギナシ塊茎 茎基部に塊茎をつける



▲幼苗 上オモダカ・アギナシ
下ヘラオモダカ・サジオモダカ



▲ヘラオモダカ 葉はへら状



▲サジオモダカ 葉はさじ形